

## アドバイザー派遣事業 実施レポート

境二中・法勝寺中授業研究会

1. 研修テーマ 「確かな学力」の定着を目指して  
～「協同学習」の理論をいかした主体的な学びの創造～
2. 研修日 平成27年11月18日（水）
3. 会場 境港市立第二中学校
4. アドバイザー 高旗浩志教授（岡山大学教師教育開発センター）
5. 研修のまとめ

今回の研修では授業参観の視点を「より協同的な学びにするためにできること」とした。具体的な視点例として挙げた点は以下の通りである。

- ・ 本時のねらい（学習課題）が明確か
- ・ 本時のねらい（学習課題）が生徒にとって魅力的（値打ちがある）に感じるものか
- ・ 学習活動はねらいを達成するために有効（効果的）か
- ・ 生徒全員が活動イメージを持ち、学習に参加できているか
- ・ 「学びを我が事」と感じられるふり返りがあるか

事後の検討会では、これらの視点を中心に、グループごとに意見交換をした。その後、全5グループから発表を行い、全体で良かった点や今後の課題点などを共有した。各グループの内容は以下の通りである。

### 【良かった点・工夫点・参考となる点など】

- ・ 生徒全員の発表の準備ができていた
- ・ 教師からの本時の流れの説明が簡潔でわかりやすく、生徒が活動の流れを理解し、自主的に行動できている
- ・ 「書く力」が鍛えてある
- ・ 単元の構成が良い
- ・ 生徒の課題に合った活動が設定されていた
- ・ 教師の説明より、友達からの説明の方が生徒の意欲向上につながる
- ・ 質問をされた生徒が答えられないときに、グループみんなでそれについて調べたり考えたりする姿があった
- ・ ふりかえりの場面で、個人の学びの確認ができている
- ・ 振り返りが記述式のため、学びの確認がしやすい

### 【改善点・課題など】

- ・ 聞き方のポイントを示すなど、聞き手への手立てがあってもよかった
- ・ 本時のねらいを「グループの全員が理解できるように説明し合おう」にしたなら、聞き手の姿勢も変わるのではないか
- ・ 支援が必要な生徒への手立てをどうするのか

- ◆ 自分が調べたこと以外のことは理解できたのか
- ◆ 間違っただけを覚えてしまっている恐れがあるので、事後の修正が必要だと思われる

アドバイザーの高旗先生から、今回の授業への指導助言もふまえ、『学習する集団』を実現する考え方と技法』と題し、ご講義いただいた。内容は以下の通りである。

協同学習の理念とは、生徒が共に高め合うことを目的としたものであり、学級の中に支持的風土をつくる集団づくりである。具体的に言えば、進度が遅れがちな友達を、支えられる集団である。そして、前向きで主体的な子どもを育てたい、という思いから生まれたのが「協同学習」の理念である。この理念を理解し、ただ形から入るのではなく、一斉授業を見直すことが大切である。

また、常に「学び合い」「グループ学習」をするのが必ずしも適切とは限らない。学習課題に合わせた活動が求められる。単元のまとまりで授業構想を立て、効果的な活動を位置づけるべきである。今回の研究授業では、その点が高く評価できる。こうした活動を通して、ひとりひとりの生徒に「自信」をつけさせたい。自信とは、「次の困難（課題）に向かって自分を前向きに押し出してくれる安心感」と言える。これは質の高い成功体験によって培われる。

まずは教師自身の学習観・授業観の転換をすることが必要である。教師は「知識伝達型」になじんでしまっている。10のうち、2～3割は提供しても、7～8割を、生徒自身で学び取らせるプロセスを取り入れたい。それが、新学習指導要領でも重要視される「思考力・判断力・表現力」を育てることにもつながる。

「協同学習」「学び合い」「アクティブ・ラーニング」といったことばが先行し、型にはめようとしがちだが、それでは教師個々の新しい提案に対する抵抗感、不信感が拭えない。校内研修で、授業者がどういった挑戦・提案（仮説）をしているのか、その有効性や課題を教職員全員で共有し、検証・検討できるような研修がのぞましい。今回の授業も、来年度に向けた事例として残し、研究を続けていってほしい。

今回の研修で、改めて「協同学習」への理解と教員の共通理解が深まった。参加教員対象の事後アンケートでも、今回の研修会に対し「やってよかった」という評価が100%であり、たいへん有益なものとなったと感じる。今後もそれぞれの学校で「主体的な学びの創造」の実践がさらに深まっていくよう、声を掛け合い、研修を深めていきたいと考える。

## 6. 添付資料

- ・ 研究授業指導案